

—その種目の魅力はどんな感じにありますか。

長谷川さん：「走ってはいけない」という陸上競技の中でも異質といえる特徴をもち、選手のみならず審判との駆引きもある、ただ歩くだけではない種目。

—チーム代表としての心持は(限られた人しか出る)どのできない日本インカレの選手として出場される心情などをお聞かせください。

長谷川さん：全力の標準は多数の人が簡単に切れるものではなく、「選ばれた」ではなく「掴み取った」ものである。自分で掴み取った出場権をムダにせず、ベストパフォーマンスを発揮することに意味がある。

—一緒に戦ってきたチーム芸芸大学陸上部のいい所はどんなところだと考えますか。

長谷川さん：応援やサポートが力になることは間違いないが、最終的には自分次第。少しでも速く、上位でフィニッシュしたいと盛り上がるのよい。

—11月に来るまでに(又は標準を切るまでに)強化して練習してきたことや全力で見ている感じはありますか。

長谷川さん：以前よりフォームが安定し、失格のリスクが減ったことで、攻めることができようになった。また、課題であるスピード面を強化する練習を行ってきた。

—日本インカレでの目標や意気込みを教えてください。

長谷川さん：PBは絶対条件、その中でいかに上位勢と勝負できるかになっている。タイム的には全力17A標準にあたる42'00を切る17Aが目標。

—試合前や、試合の時に必ずやるマイルールのようなものはありますか？

長谷川さん：マイルールを決めちゃおうと、それができない状況のときに動揺してしまつのであえて何も決めてないです。強いて言うならスタート直前に両足で高くジャンプしたいです。

—なるほど。確かにその通りですね。⑥ 全力でも自分らしくいしも通り頑張ってください。

長谷川さん：ありがとうございます、がんばります。

—最後に一言お願いします。

長谷川さん：先輩2人とレースに出れるのも残り少ないので、1つひとつのレースを大切にします！